



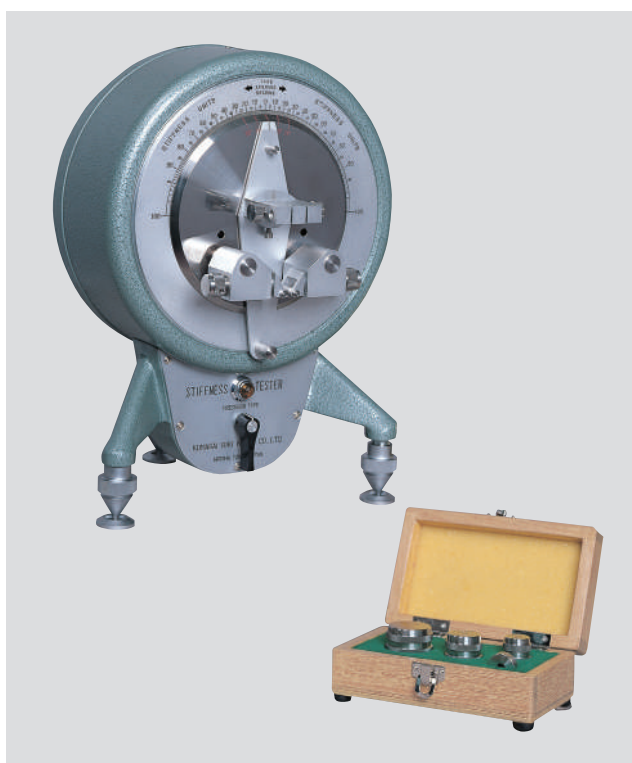
No.2048-D テーバーステフネステスター (自動デジタル表示式)

材料の加工及び印刷作業性に関する適性として“こわさ”が取扱上、重要な項目となります。こわさはパルプの叩解度、坪量、紙厚、水分などと相互関係を持っており、これらの要因と“こわさ”とはほぼ比例する関係を持っています。特に厚さとは強い相関が認められています。本機は、紙、板紙、プラスチックシート、金属箔等の試料の一端を固定し、そこを中心にゆっくり回転させることにより、他端に曲げ荷重を加えます。15度又は7.5度の撓み角をあたえたときの荷重点角度をセンサにより読み取り、こわさを算出して表示します。

< 特長 >

1. 零点調整が完全に自動化され、測定時間が大幅に短縮される
2. 試料を挟み、AUTO SW を押すだけで左右の個別測定を行います。左右のデータをそれぞれ表示し、左右の平均値も出力するので操作性が良い
3. 測定後、回転円板は早戻り(4倍速)で零点到正確に復帰する

試料	巾 30 ~ 40mm (標準 38mm) 長さ 70mm 厚さ 3.2mm 迄 (0 ~ 10g レンジ 長さ 27mm)
測定レンジ	0 ~ 10 (g・cm) 0 ~ 100 (g・cm) (標準) 0 ~ 500 (g・cm) 0 ~ 1,000 (g・cm) 0 ~ 2,000 (g・cm)
曲げ速度	180° ± 40° /min
こわさデータ	左、右、平均
表示切替	SI 単位と g 単位 切替可能
参考規格	JIS P-8125-2000, TAPPI T489os-99, ISO 2493
電源	100/110V 50/60Hz 1A
外形寸法	300×320×440mm
重量	13kg



No.2048-M テーバーステフネステスター (電動式)

本機は紙、板紙の“こわさ”を簡単に測定する装置です。試料に対する曲げ荷重を与える方式には精度の高い振子方式を採用しています。補助重錘または補整子を用いることにより測定範囲を拡大し、より高感度な再現性ある機構になっております。試料は振子回転軸上に一端を固定され、他端は荷重負荷円板と共に回転して試料に曲げ荷重を与える一対の荷重ローラー間に位置します。この試料に対し、ローラーが15°又は7.5°の撓み角を与えた荷重点(回転角度)を外側の目盛板にて読み取ります。

試料	巾 30 ~ 40mm (標準 38mm) 長さ 70mm 厚さ 3.2mm 迄
たわみ角	15° 又は 7.5°
最大曲げモーメント	490mN・m
附属品	重錘(500,1000,2000g レンジ用)、 補整子(0 ~ 10g レンジ用)各1個
参考規格	JIS P-8125-2000, TAPPI T489os-99, ISO 2493
外形寸法	350×250×260mm
重量	13kg